

平成27年度事業報告 (保健子ども課)	
事業名	食べて、話して、繋がろう中央区
事業の概要・経緯	
【事業概要】 口の中から区民の健康づくりを推進するため、中央区で開発したベロタッチマニュアルを使って舌の刺激を行うとともに食べたもので命が繋がっているなど食の大切さを児童や区民に伝える。 【経緯】 1.講演会事業 食べたもので命が繋がっていること、口の健康の大切さを周知するため、一般市民向けの講演会を開催。 ・第1回 7月5日(日)「口を閉じて鼻呼吸」 今井一彰みらいクリニック院長(156人参加) ・第2回 11月27日(金)「食べてつながる命、育つこころ」 比良松道—九州大学准教授(86人参加) 2.応援隊(ボランティア)育成事業 ・育成研修会 6月20日(土)、21日(日)の二日間にわたって、口の健康と全身の関係、誤嚥と老化、生活主幹病と腸管の関係、低栄養の予防、摂食嚥下の機序、口腔の発達とベロタッチなどについて、医師、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士、管理栄養士、作業療法士からの講義を実施し、隊員 32名を育成。 3.地域での応援隊の活動事業 ・保育所・幼稚園、小学校でのあいうべ体操、ベロタッチの指導(城東保育園、横手保育園、出水南小学校) ・その他団体で36名に啓発を実施。 ・「くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会との協働でベロタッチカード作成やベロタッチ音頭の改善を実施。 4.食の思い出エピソードの募集と表彰 ・募集期間 H27年7月1日～9月30日 ・応募総数 26編、うち6編を11月27日に熊本市国際交流会館で表彰	
事業の成果・反響	
【事業の成果】 ・講演会には242人の参加がありアンケート結果として90%以上が内容がよかったと回答、高い効果が得られた。 ・地域での活動の広がりや継続性を維持するために新しく32人の隊員を育成。 ・小学校の「ふれあい運動会」などでベロタッチ音頭を隊員とともに小学生とPTAと一緒に練習し、踊ったことで、子どもを中心とした世代間の絆が深まった(出水南小学校 児童107人 隊員16人、PTA15人) ・「食」の思い出エピソードを地域で配布し、内容を共有することで絆が強まった。 ・講演会や保育所・幼稚園・小学校、ふれあい運動会など各種勉強会で約1,000人に啓発活動を実施。 ・講演会后、応援隊に講演依頼や活動への参加希望者があった。 ・親しみやすい活動とするためブルゾンや法被を作成し、地域で取り組みやすい活動としてのアピール効果を高めた。 ・当初事業計画より打ち合わせ会議を頻回開催したことで、応援隊の結束が高まり、活動の推進力となった。 【事業の反響】 ・活動がマスコミや中央区だよりに取り上げられた(2015.7.22 熊本日日新聞) ・マスコミや中央区だよりに取り上げられたことにより「くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会」や「みらいクリニック」から、ベロタッチカードやあいうべ体操の普及拡大など活動協力の依頼があった。(DVD、ベロタッチカード)	

H27年度 食べて話してつながろう中央区 応援隊活動状況

○講演会の様子



○隊員育成研修会の様子



○地域活動 (保育園での啓発活動、団体への啓発活動)



○「食」の思い出エピソード編集、会議他

